


ふりがな 氏名	まつおか りゅうた 松岡 竜太	都道府県	京都府	
所属/肩書	京都市立紫野高校 教諭・企画推進部			
私のESD活動	未来の国際人を育むため豊かな自然と歴史的な文化財に囲まれた環境で国際理解・国際交流学習を推進する			
ESD活動を表すキーワード	高校教育	言語	グローバル	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

紫野高校は「21世紀を自分で歩く未来の国際人の育成」を教育理念に学習活動を行っており、持続可能な社会の担い手となる人材育成を目指している。本校では総合的な学習の時間で「持続可能な開発(以下 SD)」をテーマに学習をすすめている。私の所属する企画推進部ではそのSDをテーマにした教材開発を行っている。1年生入学後まずはSD概念の理解を目指し、前半は身近なSD、そして後半は世界とのつながりを意識したSDについて学習し少しずつ生徒の中の世界が広がることを意識した教材とした。ただ、1年生に「持続可能な社会を目指して何ができるか？」を問いかけても持っている知識の総量が多くないため、入学直後は自分たちの生活と社会とがなかなか結びつかない現状がある。そこで1年生の前半では、まず教員側でSDの例を提示し説明、その後、1週間の新聞記事からSDにかかわる内容を取り上げ、その記事のどの部分がSDにあたるかを示し、生徒自らSDにかかわる記事を調べ、それをまとめたものをお互いに発表させている。この活動を通して、社会でおこっている問題について自分ならばどうするかを考え行動できるようになることを目標としている。紫野高校では1年生の3月に8クラス全員が海外研修を行う。この海外研修においてもただ単なる異文化交流ではなく、SDの視点をもって研修に臨むよう指導する。そこで1年生後半には海外研修で訪問するマレーシアを題材に、「日本とマレーシア、東南アジア、そして世界」などのつながりに着目し生徒自身がテーマを設定し事前学習・現地学習・事後学習を通して、世界で活躍する持続可能な社会の担い手の育成を目指している。

・京都市立紫野高校 <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/murasaki/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

ESDの活動が自ら問題提起を行い、行動する活動であることから、まず教師としては「アクティブ・ラーニング」を実践していくよう努力していく。英語の授業でも重要視しているが、これは一方向的な講義形式の教育とは異なり、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等を中心に行う手法であり、生徒がより主体的に学習できるように教師側はフォローアップしていきたい。その上で中立かつ正しい情報を供給できるように多角的な視点から社会問題を深めていく。また最終的には彼らが自ら意見を発信できるように準備段階での疑問を明確にできるよう具体的な問いかけを心がけ、なぜそう感じたのか、そして問題解決に何が出来るかを考え行動できるよう指導していく。